

おきなわ・海歩き 第7回
海の草原 海草藻場

鹿谷麻夕（しかたに・まゆ）

沖縄のような亜熱帯の海には、サンゴ礁以外にも海の生き物がたくさん見られる場所があります。それが海草藻場とマングローブの森です。今回は海草藻場をご紹介します。

「かいそう」と聞けば普通は海藻という字を書きますね。ワカメやコンブ、ヒジキやモズクなど食べられる種類が思い浮かぶでしょう。これらは植物の中でも藻類と呼ばれる、いわば原始的な特徴を残した仲間です。そして私たちが親しんでいる樹木や草花は、水中の藻類から進化して陸上で大繁栄した子孫です。さらに、なんと陸に上がった植物の中で、もう一度海での暮らしに戻る種類が現れました。それが、同じ「かいそう」でも海草と書く仲間たちです。紛らわしいので「うみくさ」とも読みます。陸から海に戻った海草は、海の中でも季節になるとちゃんと花を咲かせ、実もつけます。たいていは地味な花ですが、西表島のウミシヨウブのように白い小さな雄花を海面に一斉に放つ種類もあります。

さて、海藻や海草が茂っている場所は藻場と呼ばれます。海草藻場は、まるで海の中の草原のよう（写真1）。よく見ると、海草にもいくつかの種類があることに気がつくでしょう。葉に赤い縞模様がついたリュウキュウアマモ、細長い棒のようなボウバアマモ。アマ



写真1 海草藻場は海の草原



写真2 丸い葉っぱのウミヒルモ

モというのは、草に甘味があるからだそうです。それから葉がとても細いマツバウミジグサや、丸い葉っぱのウミヒルモ（写真2）。これらは、実はジュゴンの大好物。海草を食べる動物にはウミガメやジュゴンがいますが、沖縄ではジュゴンのことをザン、ジャンなどと呼び、海草のことをジャングサといいます。今でもジュゴンが暮らす沖縄島北部の東海岸では、ジュゴンが海草をかじった跡が、長い帯のように残っているのが見つかります。ジュゴンはとても数が少なく、その姿を見ることは難しいのですが、ジュゴンの新しい食べ跡を見ると、本当にいるんだなぁと実感することしきりです。

そんな海草藻場で、おそらく一番目立つ生き物はコブヒトデでしょう（写真3）。大きいと直径が30センチくらいになる立派な体。オレンジ色に黒いこぶの派手な模様や、グレー色の地味なまでいろいろです。毒やトゲはないのでさわっても大丈夫。ひっくり返した真ん中にぶよぶよした袋のようなものが出ていたら、それはヒトデの胃袋です。コブヒトデは、体の真ん中にある口から胃袋を外側にひっくり返し、砂の上に直接押し付けて有機物や小さな藻類などを消化・吸収するという食べ方をします。他の動物を襲ったりしない、見かけのわりに平和な生き物です。



写真3 派手なタイプのコブヒトデ

また、海草藻場には、貝の宝庫と言ってもいいほどたくさんの二枚貝が住んでいます。海草の根のような部分（地下茎^{ちかけい}）がからみ合い、波で砂が流されないよう砂地を守ってくれるので、良好な生息場所になるのでしょうか。潮干狩りをする地元の人々は、よく砂地に長い棒を突き刺しながら歩いていま



写真4 カワラガイの赤い粒はこすると取れる

す。砂に棒を刺すと、近くに潜っていた二枚貝がびゅっと水を吐いて閉じるので、貝の居場所が分かるのですね。海草藻場は海の恵みが採れる「海の畑」でもあるのです。沖縄にぴったりの二枚貝もいますよ。白い殻の表面に並んだ赤いつぶつぶはまるで沖縄の伝統的な赤瓦の屋根のよう（写真4）。これはその名もカワラガイです。

藻場にはカニもたくさんいます。特に面白いのはカラッパの仲間（写真5）。彼らは巻貝や巻貝の殻に入ったヤドカリを食べるため、右手のハサミが缶切りのような形に変化しています。貝殻の口にハサミの突起を引っかけて、バリッ、バリッと殻を回しながら見事に割っていきます。もし巻貝の芯だけが残った殻を見つけたら、それはカラッパのしわざです。



写真5 砂に潜っていたソデカラッパを発見

少し水深のある場所をシュノーケルで泳ぐのも楽しいものです。水中の草原の上をすいすいと泳いでいると、いつの間にか何千という小魚の群れに包まれることがあります。1センチ足らずの銀色の小魚が数千匹も群れて泳ぐさまは、とても美しい。藻場は稚魚のゆりかごとも呼ばれ、様々な魚の子供たちが餌場や隠れ家にして暮らす場所です。藻場を産卵場所にする生き物も多く、海草の陰に、白いさやに入ったアオリイカの卵が産み付けられていることもあります。

サンゴ礁に多くの生き物が暮らすのと同じように、海草藻場にもそこに暮らす特有の生き物がたくさんいて、その豊かさはサンゴ礁にも引けを取りません。しかし沖縄島で海草藻場が広がる場所は、今や限られています。さらに、そのうち特に自然の豊かな泡瀬干潟や辺野古の海草藻場は、埋立てや米軍基地建設の予定地にもなっています。これ以上沖縄の海を、特に生き物の豊かな海草藻場をなくすことはしないでほしいと、願わずにはいられません。